

縄文時代のウルシとその起源

Origin of Urushi (*Toxicodendron vernicifluum*)
in the Neolithic Jomon Period of Japan

鈴木三男・能城修一・田中孝尚・
小林和貴・王 勇・劉 建全・鄭 雲飛

SUZUKI Mitsuo, NOSHIRO Shuichi, TANAKA Takahisa,
KOBAYASHI Kazutaka, WANG Yong, LIU Jianquan and ZHENG Yunfei

はじめに

- ① 中国のウルシと日本のウルシの遺伝的關係
- ② 我が国におけるウルシの化石証拠
- ③ ウルシの考古植物学

【論文要旨】

ウルシ *Toxicodendron vernicifluum* (ウルシ科) は東アジアに固有の落葉高木で、幹からとれる漆液は古くから接着材及び塗料として利用されてきた。日本及び中国の新石器時代遺跡から様々な漆製品が出土しており、新石器時代における植物利用文化を明らかにする上で重要な植物の一つであるとともに日本の縄文文化を特徴づけるものの一つでもある。本研究では現在におけるウルシの分布を明らかにし、ウルシ種内の遺伝的変異を解析した。そして化石証拠に基づいてウルシの最終氷期以降の時空分布について検討した。その結果、ウルシは日本、韓国、中国に分布するが、日本及び韓国のウルシは栽培されているものかあるいはそれが野生化したものであり、中国には野生のものか栽培のものか両方があることが明らかとなった。それらの葉緑体 DNA には遺伝的変異があり、中国黄河～揚子江の中流域の湖北型 (V)、浙江省と山東省に見られる浙江型 (VII)、日本、韓国、中国遼寧省と山東省に見られる日本型 (VI) の3つのハプロタイプ (遺伝子型) が検出された。中国大陸に日本と同じハプロタイプの野生のウルシが存在することは、日本のウルシが中国大陸から渡来したものだとするならば山東省がその由来地として可能性があることを示唆していると考えられた。一方、化石証拠からは日本列島には縄文時代早期末以降、東日本を中心にウルシが生育していたことが明らかとなった。さらに福井県鳥浜貝塚遺跡からは縄文時代草創期 (約12600年前) にウルシがあったことが確かめられた。このような日本列島に縄文時代草創期に既にウルシが存在していたことは、ウルシが大陸からの渡来なのか、元々日本列島に自生していたものなのかについての再検討を促していると考えられた。

【キーワード】 ウルシ、分布、葉緑体 DNA、化石証拠、鳥浜貝塚遺跡